

かわさき教育プラン 学校教育改革重点施策整理表

レ	学校教育改革重点施策（案）	策定委員会等でいただいたご意見
		<p>(0) 全体的な事項・新たに議論すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校教育の話で目立つのは多様性・選択性の話ぐらいで、あとは常識的なことが並んでいる。学校教育とはそういうものかもしれない・・・ ・ 教育行政改革で出ている学校選択制は反対。学校選択、学校評価、どちらも何故学校教育専門部会で話が出てこないのか。 ・ 新たな視点の提案として 家庭の教育力の向上（回復）、環境、福祉、体験学習、音楽、読書、まちづくり、情報化 ・ 全体的に文言が未熟である。 ・ 今後深めなければいけない問題として。 <ul style="list-style-type: none"> 家庭教育のありかた 議論が進んでいない。 心の教育 プロットは出ているが、人と人のかかわりにかかわる人間関係や社会的な力、こういうところに少子高齢化社会の中で問題が残っているので、心や社会性という点でもう少し突っ込んだ検討が必要 高等学校 市立高等学校のあり方、中高一貫の問題等も含めて、高校をどういう風に川崎という地域の中で考えていくのか。高校と大学の連携はどうするのか。 幼保一元化の問題 現在幼稚園における預かり保育の問題が課題になっているが、そうすると幼稚園のカリキュラム自体は独自につくらなければいけなくなるなど、まだだれもやっていない問題が出てくる。幼稚園、幼児教育をめぐっての問題をもう一回もう少し今日的に検討する必要。 学校と地域の問題 川崎という地域それ自体が学校なのだという考え方で、地域の中に子どもたちがどういうふうに触れ合いながら自分を見つめ直していくかという教育も学校・地域・家庭の問題となる。 ・ 次の2点は、それぞれトータルに論じないと両立しない。 <ul style="list-style-type: none"> 学校選択制と地域社会による学校支援 校長のリーダーシップと教育委員会からの学校支援 人間としてリーダーシップのある人でないと、地域とかかわり、教職員への指導力がうまくいかない。任用条件、管理職試験の方法、教育委員会からの支援体制を検討する必要。 ・ 子どもがどのような発達をしていけば望ましいのか、あるいは大人社会の影の部分子どもがどう背負っているのか、という議論がほしい。
	<p>(1) 改革の視点</p> <p>川崎市においては「子どもたちの夢を育む 川崎の教育」という目標の下、これまでも多様な教育施策を実施してきましたが、今後21世紀にふさわしい学校像を構築していくために、新しい時代に対応した教育改革の柱として、次の4つの基本的な改革の視点を示し、望ましい学校教育を推進していきます。</p> <p>1 子どもたちの確かな成長を願って</p>	<p>(1) 改革の視点</p>

<p>子どもの人権を尊重し、「確かな学力」を育て、豊かな人間性を育む教育を充実させる。</p> <p>2 特色ある学校づくりをめざして 子ども、保護者、川崎市民の希望や期待に応え、地域課題をふまえた夢を育む学校づくりに努める。</p> <p>3 教職員の力量形成と向上をめざして 創意と活力にあふれた夢のある教職員が子どもに夢を育む。</p> <p>4 学校・家庭・地域の子育ての体制づくり 地域を基盤に学校と家庭が手を結び、子育ての支援体制を強化する。</p>	
<p>(2) 改革の方向性 上記の視点に従い、目的を達成するため、以下の方向性で施策を推進します。</p> <p>【1】子どもたちの確かな成長を願って</p> <p>いのちの教育、夢をはぐくむこころの教育を推進します。 これまで川崎市は、「子どもの権利に関する条例」を制定するなど、人権尊重教育に積極的に取り組み、川崎の教育施策の基礎理念としてきました。この姿勢はこれからも変わることなく進めてまいります。すべての子どもたちに学習が受けられるような支援体制を図っていく等、より一層、子どもの人権を尊重した施策を推進していきます。また、いじめ・体罰の根絶や不登校の減少に向けた具体的な施策、家庭や地域の教育力の向上をめざした取り組みを推進します。</p> <p>子どもが生涯にわたって健やかに生き抜く教育に取り組みます。 子どものこころが健やかに育つことは、社会の願いです。人間のこころの形成期ともいえる一生で一番大事な時期にある子どもを、支援・指導できる協働体制をつくり、教師が子どもと主体的に関わりあえることを大事にします。</p>	<p>(2) 改革の方向性</p> <p>【1】子どもたちの確かな成長を願って</p> <p>○全体的に</p> <ul style="list-style-type: none"> 各部会では基本的な教育目標についての議論はむずかしい。しかし、子どもたちの確かな成長を願ってという文言があるように、これからの子どもの成長発達というのはどうあるべきかを議論するというのは必要。それに基づいて学校はどうあるべきかが先行するのではなくて、どういう子どもを育てるのか、どういう大人になってもらうのかというのがあって、初めて学校をどう変えたいかというのがでてる。 子どもの成長、発達に関わる事として、国が行っているキャリア教育（子どもの頃から自分の将来、進路について色々な面から考えていかせることを目標とする教育）のようなことも重要な視点として議論してほしい。 「～の確かな成長を願って」「健やかな成長」 <p>いのちの教育、夢をはぐくむこころの教育を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域の教育力・・・ 家庭教育の一層の充実をはかり、地域の教育力の・・・ 「すべての子どもたちに学習が受けられるような支援体制・・・」 すべての子ども達が、豊かな心を持ち健康で夢を実現できるような支援体制・・・ 「いのちの教育、夢をはぐくむこころの教育」とは何をあらわしているのかわかりにくい。また、この項目中の記述と一致した表題にしたいが全体的に何がしたいのか文章がわかりにくい。 例えば、「子どもの人権を尊重した施策を推進」とあるが、子どもの人権を尊重した施策と「いのちの教育、夢をはぐくむこころの教育」の関係がよくわからない。表題との関係がわかるような書き方にしたいと思います。 また、この項目中で方向性として大切だと思いましたが、「子どもの権利条例に則し、全ての子どもたちが安心して学習を受けられる教育環境を保障すること」です。いじめ・体罰・学級崩壊など教育現場が抱える課題は、その当事者だけでなく教育環境を共有する全ての児童・生徒の安心して学習を受けられる権利を脅かしていることになると思われます。学校教育は常にそのような状況が減少するよう努めることが大切かと思われます。しかしながら、これも、表題との関係が読み取れません。 <p>子どもが生涯にわたって健やかに生き抜く教育に取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体的にわかりづらい。 内容に「心の形成期にある子どもを、支援・指導できる協働体制をつくり、教師が子どもと主体的に関わりあえることを大事」とあるので、「生涯にわたって健やかに生き抜く教育」とはこころの教育のことなののでしょうか？現在の表現では「健や

<p>さらに、教職員に対する専門家等の相談・支援体制を整えることで子どもを取り巻く支援体制を強化していきます。</p> <p>また、一人一人の子どものために目が行き届くよう、指導できるシステムづくりや特別支援教育への取り組み、学校教育と社会教育が一層連携をした支援体制づくりなどを強化していきます。</p> <p>より良い社会を創り出していく「確かな学力」の育成をめざします。</p> <p>社会では基礎的な学力の低下が懸念されていますが、その背景に学校完全週5日制などに伴う、絶対的な授業時間の減少も要因のひとつとして考えられます。また、基礎的な学力が各学校できちんと定着しないまま上級学校に進学しているという現状も見られます。</p> <p>ところで、社会的に関心が高まっている「学力」ですが、川崎市では、新学習指導要領がめざす「生きる力」を備えた子どもを「確かな学力」もった子どもとしてとらえます。「生きる力」とは、知識や技能を身につける活用する力、学ぶことへのやる気や意欲、自分で考え判断する力、自分を表現する力、問題を解決し、自分で道を切り開いていく力といった総合的な力です。この「確かな学力」をどのように評価していくのかを、保護者や市民の方々と考えていくことで、有効な施策を進めていきます。</p> <p>今後は、学力低下を問題とするのではなく、「確かな学力」をつけることを課題として、習熟度別学習などの少人数指導の一層の導入やティーム・ティーチングなどの指導体制を充実していきます。</p> <p>また、学校二期制や義務教育の全期間を見据えた上でのカリキュラム編成の導入を図るなど、長期的な視点で子どもの理解度を確かめながら学習を進めていきます。</p>	<p>かに生き抜く教育」とは健康な身体をつくることなのか、精神的に健康であることを意味しているのか不明確です。何を意味しているのか具体的にわかるような表題にしたいと思います。そうすることによって以降に続く、「教職員に対する専門家の相談・支援体制」や「一人一人の子どもたちに目が行き届くよう、指導できるシステムづくりや特別支援教育への取り組み、学校教育と社会教育が一層連携をした支援体制づくりなど強化」がどのようなことを指しているのか初めて理解することが出来ます。</p> <p>より良い社会を創り出していく「確かな学力」の育成をめざします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 習熟度別学習などの・・・ <ul style="list-style-type: none"> 個性重視の教育をめざし、ひとりひとりの子どもに応じたきめ細かな指導を展開する ・ 「<u>今後は、学力低下を問題とするのではなく、「確かな学力」をつめることを・・・</u>」 下線部削除 ・ 「この「確かな学力」をどのように評価していくのかを、保護者や市民の方々と考えていくことで、有効な施策を進めて」とありますが、誰が、「確かな学力」の評価を主体的に考えていくのか示されていません（この文章には主語がありません）。新しい学習指導要領で示されている「生きる力」は意欲や態度などもあり評価が難しいとも言われています。いったい誰がこの難しい課題に主体的に取り組んでいくのか示す必要があると思います。 また「今後は、学力低下を問題にするのではなく」とありますが、たぶんこれは私の発言がもとで挿入された語ではないかと想像されます。私の説明が悪く多少誤解が生じている感がありますので、少し説明しておきます。私がこのように申し上げた意図は、現在の児童・生徒の学力の状態をできるだけ正確に把握しその評価をもとにより着実な学力の育成ができることが望ましいという意味で発言しました。漠然とした感覚や異なる学力観の下で学力低下を論じるよりも、より確かな状況把握の下に学力のことを考えたいという意味の発言であって、決して学力低下が問題ないと思っているわけではありません。 ・ 学校二期制 学校二期制の検討（導入に向けてはまだまだ議論が必要） ・ 「習熟度別学習指導などの少人数指導の導入」の部分は、理解できるが表現があまりにもストレートすぎるし、これだけでは足りない視点もある。改革の視点や方向性ではきめ細かな指導という文言を出しておいて、具体的な施策の段階で必要あれば事例を出していったほうがいい。
<p>【2】特色ある学校づくりをめざして</p> <p>川崎という地域に深く根ざした、特色ある教育活動の編成と展開をめざします。</p> <p>保護者や地域の方々からの要望や地域性等により各学校独自の特色が生まれます。既に、学校教育推進会議（学校評議員）や地域教育会議などでは、地域性を生かした取り組みが展開され、学校改革の一翼を担っています。今後、各学校が校長のリーダーシップのもと、学校の自主性や自律性を発揮していくことで、更に、特色ある教育活動の編成と展開を図ります。</p> <p>すでに、有能な外部人材活用の導入に努めていますが、更に積極的に推進することが大切です。同時に、豊かな体験活動の一層の推進や学校プランの発信など、保護者や地域の人々との意図的・計画的な連携を図っていきます。</p> <p>また、「読書のまち かわさき」事業や「音楽のまち かわさき」事業など、生涯学習につながる事業を展開していきます。</p>	<p>【2】特色ある学校づくりをめざして</p> <p>川崎という地域に深く根ざした、特色ある教育活動の編成と展開をめざします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校長のリーダーシップ、雑務について（【2】も同じ） 校長・教員の能力と人事改革（若手登用、自己評価、研修等、内部人材の活用制度をどうするか）（【3】だけでは不十分） ・ 特色ある学校づくりでは、特色ある学校をつくるのが目的ではなく、学校の自主・自律性を尊重していくと結果として各学校が異なる特色を持ってくるだろうということだと思います。では、なぜ各学校の自主・自律性を尊重する必要があるのでしょうか？何を実現したいために自主・自律性を尊重するのでしょうか。特色ある学校を創るためではないと思います。特色ある学校は単なる結果であって、目指すべきゴールではないと思います。ここで、目指しているゴールは、「保護者や地域の方々からの要望や地域特性」をいかに的確に学校経営に反映していくかということではないのでしょうか。ここでの説明ではそのことが明確にわかるような記述にしたほうがいいと思います。 「外部の人材の活用、豊かな体験活動」などはそれらの要望を実現する方法論の一つではないかと思われます。つまり、要望の内容によっては必要ないこともあるものではないでしょうか。別項目として、地域と連携をとる学校運営や学校教育の方法について活用できる人材から方法まで柔軟に対応できるような方向性を求めていると言えるので、この項とは別にした方がいいと思われる。

<p>幼稚園から中学校までの12年間の子どもの成長を見通した教育活動の展開をめざします。</p> <p>これまでも、幼稚園や保育園と小学校との連携、小学校と中学校との連携、中学校の高校訪問などは、多くの学校において、教育活動の中に位置づけられてきました。しかし、特に小学校から中学校に進学した段階で、学校のシステムの違いや学習進度の早さ等で、子どもたちは大きなストレスを感じています。また、このような状況から不登校や授業について行かれない子どもが増えていくなどの傾向も見られます。</p> <p>子どもの学習環境の大幅な違いからくる様々なマイナス面を改善していく為に、小・中一貫校や上級学校における進学時の支援体制を整備するなど、子どもの立場から幼稚園・小学校、小学校・中学校の間で、十分な連絡、連携体制をとることで、問題を未然に防ぐことをめざします。</p> <p>国際化・情報化に対応した教育を一層推進します。</p> <p>国際的な感覚を身につけ、21世紀を生きていくためには、異なる習慣や価値観等をもった人たちとの違いを理解し認めあうといった、互いに尊重しあえる関係を築いていかなければなりません。つまり、国際化を語学習得や外国文化の知識的な習得といった狭い意味で理解するのではなく、広く世界の人たちと、語り語られる関係を築いていくものとしてとらえます。</p> <p>そのためには、小学校からの英語活動にも取り組んでいきますが、自分が育ち・生活している国や地域の習慣、伝統、文化を知り、自分の言葉で語りあう場を設けるなど、知識として異文化を理解することにとどまらない教育活動を行っていきます。</p> <p>また、国際化・情報化に向けた、施設・設備面での充実と子どもたちに指導ができる人材の育成に向け、教職員の研修システムの強化、英語やパソコンの指導能力を備えた人材活用の推進に向け、環境整備に努めます。</p> <p>創意工夫を発揮できる学校づくりをめざします。</p> <p>学校が変わろうとしている今、人事交流を活発に行い、新しい考えや発想がすぐに生かされる学校環境が必要です。そのためには、教職員を雑務から解放して教材研究等の時間を確保したり、創意工夫に校内一丸となって取り組むなど、学校に自主性・自立性を持たせられるような校長のリーダーシップが求められます。リーダーシップを校長一人の人格に求めるのではなく、校長を支える組織や在任期間、研修体系など総合的な面から校長を支える体制をつくり、教職員が子どもへの教育活動に日々、元気で活力のある取り組みができるような学校環境（例えば、学年に1人以上の加配教員）を構築していきます。</p>	<p>一方、「学校プランの発信など、保護者や地域の人々との意図的・計画的な連携を図って」とありますが、こちらは地域に深く根ざした教育活動を展開するために必要なことだと思われます。</p> <p>これらのことを整理して記述した方がよりわかりやすい報告になると思われます。</p> <p>幼稚園から中学校までの12年間の子どもの成長を見通した教育活動の展開をめざします。</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園から中学校までの12年間の子どもの成長を見通した教育活動の展開をめざします。この表記、注意を要する。 幼稚園と小学校の連携に関しては十分内容を吟味して慎重に進めないとかえって不登校の増加につながる。 小学校での「学習内容」が幼稚園や保育園においてこないよう注意したい。 小学校での授業に適應させるため、幼稚園・保育園段階で、早くからの集団適應訓練も逆効果になることが多いと思われる。 小学校の先取りではなく、「遊び」を主軸においた、幼児期にしかできない体験活動を重視する必要。 子どもの成長の連続性と校種間の接続の問題意識が必要。幼保連携だけではなく、幼保と小の連携ということも視野に入れないといけない。 全体的にわかりにくい。 <p>国際化・情報化に対応した教育を一層推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「広く世界の人たちと、語り語られる関係を・・・」 広く世界の人たちと、語り合える関係を・・・ 「英語活動」という言葉がわかりにくい。「英語活動」は英語教育や英語学習を意味する言葉ではないのですが、一般的には英語教育と混同しやすい言葉です。「英語活動」とは、異文化世界とコミュニケーションをとる最も一般的な言語（コミュニケーションツール）として英語を使った活動をしているということだと思われませんが、保護者の間でも誤解が多い用語です。使用には注意が必要かと思われます。 また、国際化・情報化に対応した教育が必要なのは理解できますが、改革として得に強調しなくともこうした方向性は周知の事実のように思えます。そこで、ここで、改革の方向性としてさらに示すからには、川崎市が抱えている国際化や情報化における特有の課題解決と関連した方向性を示すことが必要だと思います。 <p>創意工夫を発揮できる学校づくりをめざします。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員を雑務から解放する 教職員が本務に集中できるよう改善を図る。 校長のリーダーシップ、雑務について（【2】 も同じ） 校長・教員の能力と人事改革（若手登用、自己評価、研修等、内部人材の活用制度をどうするか）（【3】 だけでは不十分） もう少し説明がほしい。
--	---

【3】教職員の力量形成と向上をめざして

管理職・教職員の在り方の見直しを図ります。

教育改革が進む中で、管理職はもとより教職員は、日々、自己の成長のために資質・能力を向上させていかなければなりません。地域から信頼される確かな管理職は、学校経営においても、自らの考えをしっかりともち、教職員の先頭に立って取り組んでいかなければなりません。更に、子どもの健全な成長に直接大きな影響を与える教員においては、自らの力量を高め、学校経営の一躍を担っているという意識を持ち、活力ある教育実践に取り組むことは当然のことと言えます。

子ども達の健全な成長を支えていくために、管理職登用の在り方、教職員の採用の在り方、力量形成等について、抜本的な見直しを図ります。更に、管理職・教職員の相互連携・協働体制が円滑に図れるようにするための体制づくりを構築していきます。また、学校規模に応じて管理職をサポートできる支援体制を強化し、学校の内外にきめ細かい対応で臨むことのできる体制をめざします。

実践的な学校支援体制づくりを進めます。

校長がリーダーシップを発揮し、学校に自律性や自主性を持たせる体制づくりを進め、学校課題を解決していくために、学校の内部組織の見直しによる教職員相互の相談、支援体制づくりをめざします。一方、学校外部からは、地域や教育委員会をはじめ、問題解決を目的とした専門家チームや研究研修機関などが相互に連携し、支援する体制づくりを構築します。

更に、将来的には教育課程研究センター、研究・研修センター、教育相談センター、特別支援教育（障害児教育）センターとしての機能を強化し、川崎の学校教育の先進的な役割を担う教育機関として、現在ある市総合教育センターの機能を一層充実します。

研修プログラムの再編を進めます。

教職員のライフ・ステージに沿った研修の一貫性をめざし、新たに生じる教育の実践的課題に応えうように、現在、初任者研修や10年次研修、教務事務研修、管理職研修などの悉皆研修が生まれ、その他は、希望研修となってい

【3】教職員の力量形成と向上をめざして

全体的に

- ・ 教育行政部門の学校評価の項でも書きましたが、研修プログラムについてライフステージにあった計画的な研修として見直しを図る際に現状の研修プログラムについて評価すると思われませんが、実践的課題に応える研修を継続的に実施できるようにするため、再編の方向性に日常的な研修プログラムの評価の仕組みを組込むことが必要だと思います。また、その評価については市民に公表する必要もあると考えます。例えば、教育委員会のホームページ等で毎年計画される研修プログラムとその実施結果（参加者等）公開することが考えられるのではないのでしょうか。
- ・ 「～の力量形成と向上をめざして」
「と」が入っていると違和感がある。

管理職・教職員の在り方の見直しを図ります。

- ・ 「学校経営の一躍を担っている」
「学校経営の一翼を担っている」

実践的な学校支援体制づくりを進めます。

- ・ 「更に、将来的には教育課程研究センター、研究・研修センター、教育相談センター、特別支援教育(障害児教育)センターとしての機能を強化し」
「更に、将来的には教育課程研究センター、特別支援教育(障害児教育)センターなど、時代のニーズに合った機能を強化し」

研修プログラムの再編を進めます。

<p>ます。新たに生じる実践的な課題が益々増加している今日、市総合教育センターで実施されている多くの研修を、教職員のライフ・ステージにあった実践的な内容をもった、計画的な悉皆研修として位置づけなおすなどの見直しを図ります。</p>	
<p>【４】学校・家庭・地域の子育ての支援体制づくりをめざして</p> <p>学校のグランド・デザインと内部評価・外部評価の取り組みを進めます。</p> <p>現在、学校評価システムの構築に向け、協議会を立ち上げていますが、システムを十分に機能させ、地域から理解と協力を得るために、学校は自校の教育理念や目標を保護者や地域社会に提示し、保護者や地域の方々と十分に協議する場を準備していくと同時に、学校の経営状況や地域との関わりなどについて自己評価し、地域に公表していくことをめざします。</p> <p>また、評価をするためには、客観性や妥当性が重要になりますが、主観的な評価から子どもの成長の姿を客観的に評価し、数値化できるものは数値化し、評価後に具体的な取り組みや、見直しの視点が見いだせるような評価内容・方法、見直しのシステムづくり等を構築していきます。</p> <p>学校と地域コミュニティとの関係づくりを行います。</p> <p>いじめ・不登校、学校の安全管理、危機管理といった問題に対して、地域人材、PTA等に協力をしていただくことで対応していくなど、地域住民が学校運営に参画し、学校と地域社会とが互いに連携しあう関係をつくります。この地域人材の活用によって学校外部からの教職員への多様なサポート体制をつくることも考えていきます。</p> <p>また、子どもが全人格的に成長する過程においては、学校は必要かつ最低限の範囲で子どもを支えることが最良である場面も存在すると考えます。地域教育会議等で保護者や地域と広く意見を交換しながら今後の学校・家庭・地域の教育のそれぞれの役割を考えていきます。</p> <p>施設整備的な面においては、現在、新設校である仮称土橋小学校では、学校が地域コミュニティの拠点となるような設計に着手し、建設が始まろうとしています。今後、新改築していく学校についても、保護者や地域の方々の意見を十分に汲み取りながら、子どもと大人が共に成長できる学校づくりを推進していきます。</p>	<p>【４】学校・家庭・地域の子育ての支援体制づくりをめざして</p> <p>学校のグランド・デザインと内部評価・外部評価の取り組みを進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「～の子育ての支援体制づくり～」といういい方は違和感がある。 教育行政の学校評価の部分とかなり重なる項目だと思いますが、どのような点が異なるのか私なりに整理してみました。教育行政としては、学校評価の方法を研究したり、学校評価を実施するために必要な新たな仕組みづくりやマンパワーの適切な配置について論じ、全市的な教育行政の施策展開に必要な評価について考えるものと思われます。一方、学校教育としては、教育現場に近い学校評価の場面を想定した日常的な課題に対応するための評価ではないかと考えます。そもそも、学校評価とはよりよい教育環境を子どもたちに提供するために行うものであることだと考えると、その評価は教育環境の迅速な改善につながっていくことが最も望ましいことだと思われま。そうした意味でも日常的にその時々に応じた評価あるいは反応が学校に伝わり、学校の対応が保護者・地域に伝わるのが大切ではないかと考えます。そこで、学校教育ではより日常的な家庭・地域・学校との様々な方法によるコミュニケーション促進への取り組みが目指す方向性だと思われま。例えば、通常行われている学校説明会などに加えインターネットによる情報提供や意見交換の場などを設けることが考えられると思われま。 学校は最近説明責任を意識しているようだ。説明会で説明用の資料を作って配布するが、そうした努力は受けての保護者がそれに参加したり、それを読んで建設的な意見を出したりというキャッチボールがあって初めて協力関係が成り立つ。しかし、現実にはそれがうまくいかない点に課題がある。 学校評価は、内部評価、外部評価にしても川崎として学校の特色作りをするときに、どう評価するか。二者択一ということではないが、同じ指標をつかって学校を横並びにしてどっちが進んでいるかというような相対評価や、それぞれの学校の特色を明確にするような評価など、評価の基本的な方向性を出していく必要がある。 <p>学校と地域コミュニティとの関係づくりを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域コミュニティとの関係づくりについて、もう少し積極的な内容を。 「保護者や地域の方々の意見を十分に汲み取りながら」とあるが、地域の意見を吸い上げるためにもう一步踏み込んだ施策がほしい。例えば中学校区地域教育会議は、一応、地域の全ての立場の人が入っていることになっている。こうしたところももっと連携して、ということも考えられないか。 地域が学校へだけでなく、学校が地域に何をすべきか、何ができるかの視点も重要 この項目に入れるべきか迷っていますが、地域で子育てを支えるという視点に立った場合、近年特に注目すべき課題は、安全管理・危機管理の問題だと思われま。地域に開かれた学校を目指すと同時に地域ぐるみでの安全管理・危機管理には一層の対策が必要だと思われま。例えば、全ての学校に警察への直通電話を設けるなど警察との連携を強化する方向性は大切ではないかと思われま。 教師が多忙なのは、地域と協力することによって忙しくなるっているのも原因。地域との関連という中で、教師の負担も考える必要がある。